

滋賀建設会だより

第5号
滋賀建設会

はじめに

滋賀建設会会長・石田良明

滋賀建設会の皆さん、日頃は当会の活動にご理解・ご協力を頂きありがとうございます。

お陰様を持ちまして伝統ある会長の職の2年目を務めさせて頂いております。

7月24日の総会・懇親会には多くの来賓の方々や会員の皆様のご出席の元、今年も盛大に開催することが出来ました。これは会員の皆様の当会に対する熱い思いの表れと、感謝しております。

さて、例年ですと総会前に「建設会だより」を発行する予定でありましたが、諸般の事情により発行が遅れたことをお詫び致します。

その代わりと言えども何ですが、今号はいろいろな世代の方に無理をお願いしてご寄稿を頂きました。また、新会員全員の紹介をすることができました。

今年度は新たに『現場見学会』を計画しておりますので、開催の日時や見学箇所などの情報を滋賀建設会のホームページに掲載致しますので時々HPをご覧ください。

引き続き、当会の活動にご理解とご協力をお願いするとともに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念しております。

アキラ琵琶のご紹介

S33年卒 安田勝美



滋賀建設会総会が七月二十四日に恒例となった琵琶湖ホテルで盛大に開催されました。

席上、挨拶をさせて頂いたとき、その中で、南郷のアキラ琵琶で案内ボランティアをしていることに触れられたところ、このたび、アキラ琵琶を紹介する機会をいただき、このように、紙面の一部をお借りすることとなりました。

琵琶湖から瀬田川を5キロ下ったところに110年前に建設された南郷洗堰(旧堰)の左岸側に琵琶湖総合開発事業の完成を前に建設されたアキラ琵琶が、今年で23年目を迎えています。

琵琶湖と淀川の治水と利水についてさまざまな角度から紹介するためコミュニケーションスペースを指して無料で公開されてきました。しかし、国の施策の変更のため、土曜・日曜・祝日の開館が困難となり、三カ年間、週日のみの開館で、来館者が激減する状況が続きました。



平成26年4月から、各方面の要望を受けて土曜、日曜、祝日も公開する方針が採用され、同時に、案内ボランティアの制度が取り込まれたものです。

二十名の入館者が公募にに応じ、休日の開館が復活した結果、昨年四月以来八月で休日の来館者が一万人を数えることとなり、開館を要望した一人として、成果を喜んでいきます。

ここで、アキラ琵琶の展示に関して琵琶湖・瀬田川洗堰の管理に関係する基本的な事項を紹介いたします。

- ①琵琶湖の水位
鳥居川水位観測所(瀬田唐橋の上流に設置)の0点の高さを琵琶湖の基準水位として、琵琶湖周辺の5点の観測所(片山・彦根・堅田・三保ヶ崎・大溝)を平均した値が琵琶湖の水位として公表されています。
- ②琵琶湖の水位管理
瀬田川洗堰操作規則で定められています。
- ③洗堰の操作
非洪水期には、プラス30センチまでの水位を維持する操作が行われています。
- ④洪水期
六月一日〜十月一日には、マインス20〜30センチに下げた洪水に備え、洪水後には、プラス1.4mの計画高水位に対してプラス2.6mの高さの湖岸堤・管理用道路により洪水を防御するものとされています。また、湖岸堤内の内水については、琵琶湖の周辺14箇所を設置された内水排除施設で排水が行われています。
- ⑤流水の正常な機能の維持並びに水道用水及び工業用水のための操作
高山ダム、青蓮寺ダム、日吉ダムからの供給と合わせて枚方地点でかんがい期には、毎秒186.31立方メートル、非かんがい期には、毎秒169.71立方メートルの水量を確保するものとされています。
- ⑥琵琶湖総合開発事業
昭和47年から25年間にわたり実施された事業により琵琶湖開発事業(水資源開発公団が実施)として湖岸治水、淀川水系の治水、下流域への都市用水の新規供給(毎秒40立方メートル)事業と琵琶湖及びその周辺で地域開発(国、県、市町村等が実施)の事業が実施されました。
- ⑦琵琶湖から出て行く人工の水路
宇治発電所のための取水路が洗堰上流500mの右岸側にあり約11キロを下って発電された後に宇治川

へ還元されています。
(水利権は毎秒61立方メートル)。
琵琶湖疏水は、明治時代から三保ヶ崎地点で取水され、京都市へ運ばれて、水道用水等に利用されるとともに、京都が日本で初めての水力発電と電車の発祥の地となりました。
(水利権は、毎秒23.65立方メートル)。

平常時には、洗堰と宇治発電所及び琵琶湖疏水の合計の水量が琵琶湖から出て行く放流量であり、ダム群と瀬田川洗堰の総合的管理が淀川ダム統合管理事務所(枚方市)のもとで調整されており、洪水時には同様にダム群と瀬田川洗堰の操作が調整されて、琵琶湖及び下流の洪水の安全な処理が行われているところで

アキラ琵琶には、洗堰の操作模型、瀬田川の改修前と改修後の比較模型が展示され、また、3Dプリンターで作成された琵琶湖流域の立体模型が好評です。

戸外の雨たいけん室では、世界一の降雨体験が子供連年の人気を集めています。

四五年のおもい

S41年卒 西山東済



サラリーマン生活に終止符を打って、起業せざるをえない状況におかれたのは、結婚したその年の年末の事でした。今から思えば若すぎたのでしょうか、先が見えなかったのでしょうか、結婚のため勤務先の社長を始め皆さんの世話になり資金を用意していただき土地を購入し家を新築しました。そのことにより、同居の両親の支えもありましたが生活が立ちいかなくなり起業を思い立ったのが今日より45年前の昭和45年の事であり創業の年でもあります。それ以降、電気部品会社の加工、水道工事会社の下請け等で5年が経

過した後、元勤務先の下請け工事でお世話になる事となりました、折下の琵琶湖総合開発で業界は活況を呈していました、そんな中、下水道工事を得意とする元請の指導のノウハウが後の我が社の基本となり得意とする工事として民間工事の営業、官公庁の入札参加申請へと元請業者となるべき手続きを進めてきました。

法人設立は昭和61年4月でした、当時はバブル景気が地方にまで波及している頃で公共事業、民間投資も今日では考えられないような規模で工事の発注がおこなわれていました。そのような状況による工事価格の高止まりで我々の業界においてもバブル其のものです。工事の原価管理の概念さえなくても事業の運営に支障をきたすことはありませんでした。しかし其の後の長い試練の洗礼は予想外のことでありました。

平成の初めのバブル崩壊、業界の工事受注に絡む不祥事、不況の際の公共事業費の増額による景気回復措置効果の鈍化等々で我々業界に対する国民の目が大変厳しくなってきました。その上、世界経済の変動が地方の零細企業にまで影響を与えることとなるのを初めて実感として感じました。

趣味の土木巡り

S48年卒 中谷惠剛

(エイト日本技術開発)

『土木』が立命館から消えて久しいが、世の中には経済活動・生活を支える土木があふれている。

何処に行くにも道路や鉄道を利するし、視界から建築物と車を消し去り、地下のパイプラインも含め意識してみると、永年に亘る積み重ねと、在って当たり前の空気みたいなものと改めて感じる。

分類すると農業土木になるが、食糧米づくりの苦労した歴史の中で用水確保のための施設も興味深いものがあるので紹介する。

BKCへのアクセス拠点である南草津駅西側広場に円筒分水なるものが鎮座しているのをご存じだろうか。矢橋辺りの琵琶湖からポンプアップし、ここで農業用水と水道用水(多分ロクハ浄水場へ)に分けていく。

約2キロメートル南東の方には小規模な円筒分水も設置されており、市街地が拡大を続ける現代にあつては現地に説明板でも設置してはどうかとおもうところである。

一方、階段の手すりにウサギとカメ、まんが・アニメがいおんでも有名な旧小学校のある豊郷町にあるものご紹介。

米作りの歴史は用水確保の苦勞の歴史とも言える。何処でも水争はあったようだが豊郷でも多分にもれず苦勞が絶えなかったようである。明治末期にポンプによる地下水の揚水施設が2箇所設置された。

電力事情から蒸気を動力としたイギリスのアーレン社製『コンケロル式離心動ポンプ』なるものでどういつてで見つけてきたのであろうか、また蒸気機関車的に往復運動を回転運動に変換したのであろうかなど興味は尽きない。



ご存じの方がいらしやれば是非ご教示賜りたい。あちこち見て回るのが好きなのでじっくり研究するのはちと苦手なのです。

所在は石畑(龍ヶ池)と四十九院(砂山池)で、いずれもレトロな雰囲気の建屋とレンガ造りの構造物がある。

地表面(周辺の田)から数メートル掘り下げて石積みで囲った池をつくり、その中に井戸を掘って汲み上げる仕組みで、近くに大きな川はなく犬上川や宇曾川・南川あたりからの伏流水であろうか。



〈龍ヶ池〉



〈砂山池〉

県内にもまだまだ土木関係のお宝がたくさんあるし、過去に自分が関係した構造物などたまには自主的点検時の経過を実感している。これからも方々の様々な見聞(川、橋、堰、ダム、鉄道、木造校舎、街道筋の古い町並みなど)を続けたい。

土木を経験してきたので余計に面白くかつ深く見られるのだと感じているところである。

そうした記録としてダムに関しては時々日本ダム協会HP・ダム便覧に投稿している(HN、じむにん)ので興味がおありの方はご覧下さ

い。

ちなみにダムカードなるものが存在し、管理所でしかももらえない。このカード集め自体が趣味の方も居るようだが、行った記録として残せるのはいいものだ。



〈奥只見ダム〉

滋賀建設会で教えていただいたノウハウをライフワークに!!!

2014コンテスト入賞

53年卒 三岡和則

(滋賀県建設技術センター)



この年になり、何か人のためにやってみようという思いで、取り組みだしましたのが、現職時代、また滋賀建設会様等で教えていただいたイベント力を使つての同窓会開催(事務局担当)です。この年になりますと、昔懐かしい同窓生との語らひは、何より楽しいものです。昔、鼻を垂れていた子や、泣きべそかいていた子が、今は実業家としてバリバリやっていたり、当時全然知らなかった子

から、昔あんなのが好きやったんやでと、この年になって告白されたり、気楽なオープンな世界が展開します。

6月に小学校の同窓会を初めて開催しました。♫数年ぶりの懐かしい出会いとなりました。わからない住所を、多くの皆様に次から次へと繋いでいただき、ほとんどの同窓生に案内を出すことができました。繋いでいただいた皆様に感謝でした。自分がやつたことの傲慢な思いにも気づき、感謝の思いで開催できました。また、8歳を超える恩師にも出席していただき、大変楽しいひと時となりました。後日、多くの皆様から礼状やメールを頂き、嬉しさ100倍で、次回開催への大きなエネルギーとなつていきます。

引き続き、来年2月に、中学校ブラスバンド部顧問の先生の米寿記念の合同同窓会(約10年間の部員を対象)を開催すべく、住所録作成、米寿記念冊子作成(紙版とCD版)、生演奏企画等に着手しました。ゼロからのスタートですが、幹事仲間の熱い思いで大変盛り上がりつつあります。

滋賀建設会様には、同窓会開催について、多くのことを教えていただきました。そのノウハウは私の大きな財産となっております。そして、滋賀建設会の事務局さんや役員の方々に大変お世話になりましたこと、改めて感謝する次第です。

中高年になってからの同窓会は、皆さんが経験してきた苦労や悩み、喜びを共有できる不思議なひと時を提供してくれまます。また、限られた予算(会費)内に収めるため、インターネット情報等を駆使して、様々な内容を安価なものに、また新たなものに工夫するのも醍醐味です。こんな同窓会の事務局をライフワークとして取り組んでいくつもりです。



久しぶりの

現場施工

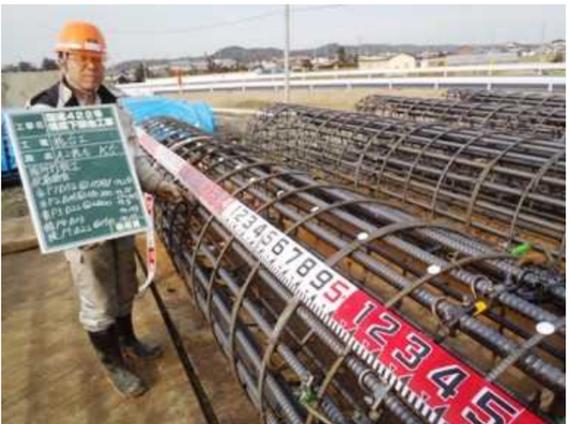
53年卒 南部安賢

(株昭建)



昭和53年衣笠学舎を後に右も左も分からないまま建設業に従事して早37年が経過しました。この間一般土木、舗装、下水等のさまざまな現場で失敗を重ねながらこなしてきました。あるときは、昼夜2現場を担当し車の中で仮眠しているところを巡回中のお巡りさんに起こされたり、あるときは下水道管より大きな転石の出現に悪戦したり、地下水の出水で下水道管の中を這いずり逃げ出したり、苦労したことばかり思い出されます。

歳月の流れとともに仕事の内容も現場施工から支店業務へと変化し、最近の10年間は、現場支援、積算等内務が主な仕事となつていま



昨年の9月1件の物件を弊社が落札し、その現場担当として赴任することになりました。実に7年ぶりです。担当現場は瀬田川洗堰下流、大戸川との合流付近に架かる国道163号線のバイパス道路橋梁の下部工築造他の工事で国土交通省琵琶湖河川

事務所発注の物件でした。

工事概要は、既設堤防道路を迂回(別途施工)後、堤防補強のための盛土6,700m³、橋台基礎杭φ1,200mm 16本、逆T式橋台1基、既設護岸取り壊し復旧550m²というものでした。

現場施工条件(必須条件)が、3項目ありました。

- 一、盛土施工は別途業者施工の迂回路供用開始後(11月10日頃)
- 二、平成27年3月末での出来高を厳守すること
- 三、平成27年6月15日で河川区域内での作業(仮設材の撤去含む)を完了させること

二月から施工を開始すれば、何とか3項目をクリアできる予定で当初計画を立案し、準備を始めました。しかし、現場に出ると想定外の事態

- 一、別途施工現場の進捗の遅れで、盛土開始が2週間遅れ。
- 二、盛土材料が購入土から近傍現場発生土に変更。
- 三、11月の雨のため盛土の遅れ。

が同時に発生しました。

休日出勤、残業で対応し、何とか無事に年度末の出来高を確保できました。

年度末が終われば、次は6月15日に向けて、橋台の構築です。ところが、またも工程を遅延させる事象が発生しました。コンクリート施工につき物のひび割れの発生です。底版型枠解体時に2.5mm程度のひび割れを発見、報告、経過観察、対応協議

補修(注入工)までに10日間を要し、工程を圧迫してしまいました。残り3回のコンクリート打設では、ひび割れ対策として誘発目地、ひび割れ抑制シート、養生方法の工夫等に対応し、ひび割れは発生するものの、幅を1.5mm以下に抑えることができました。

6月15日に護岸ブロックの天端部の埋戻しを完了し、予定通り河川区域内での作業が終わり、工期を1ヶ月残して完成検査を受けることができました。発注者監督員の指導、協力会社、担当職員との連携、協力の賜物と、心から感謝しています。7年ぶりの現場を終わって、変化

する技術への自己研鑽と、何事に対しても興味と関心を忘れないことが何よりも大切なことだと思えます

最後は、最近はじめた趣味の話です。山登りを続けています。毎年2(3)泊1泊2日で挑戦しています。苦勞して頂上に立ったときの絶景と満天の星空に癒され、病み付きになつていきます。興味のある方は是非どうぞ。もうひとつ、健康増進のため週2回ほど水泳教室に通つています。まったく泳げなかった私が、100m個人メドレーに挑戦できるようになりました。これからも仕事に、趣味に精一杯取り組んで行こうと思つていきます。(添付の航空写真は弊社で購入したドローンにて撮影したものです。)



最近の楽しみ

55年卒 石田良明

(滋賀県土木交通部 水源地域対策室)



楽しみ(魚釣り)

以前から琵琶湖のブラックバス釣りにハマっておりましたが、県の外来魚駆除作戦の効果が現れたのか、最近はずっぴり釣れません。知り合いに誘われ、最近「海上釣り堀」にはまっておりまます。三重県の南伊勢町まで出掛けられるのですが、いかんせん釣りは朝早くからで、

釣り仲間との集合はいつも甲賀市役所甲南支所の駐車場に朝3時。今年釣果は、海上釣り堀1回1ボウズ、マイカ釣り2回1イカ6匹とさんざんな結果。10月末に再度海上釣り堀にチャレンジ予定。海上釣り堀、悔る事なかれ!

楽しみ二(小旅行)

ここ1年でウサギの島(広島県大久野島・ヘューチユープで有名)、正倉院展、夕日ヶ浦温泉のカニ、四日市コンビナートのナイトクルーズ等々、目とお腹を満たすためと家庭円満のため日々努力しています。



楽しみ三(営農組合)

昨年度、石田町営農組合(組合員18名・7.6ha)を法人化し、個人の機械は売却、組合の大型機械に集約。持ち田は営農組合が耕作。今までは田植えから刈りまで全て個人が行っており、大変でした。組合員の半数以上は退職後の方で、平日はOB、現役は土日などとアルバイト感覚で労務作業に参加。でも、収穫の楽しみは変わりません。米・麦・豆以外に野菜や「守山メロン」も生産。JAおうみ富士の直売所「おうみんち」にも出荷。土なぶりはいすよ。

楽しみ四(HP作り)

きっかけは、子供が少年野球に参加し、土日の試合を仕事の都合で応援に来れない保護者のため、子供の活躍をHPで観てもらうためでした。子供が高校の時までHP作りを続けていましたが、監督から相手に打力を知られるのでスコアは乗せないでほしいと・・・トホホ。

その後は、職場の全建野球やソフトの試合を職場のみんなのコミュニケーションツールとして時々作成。滋賀建設会のHPも頑張ってお願います。(愛知県衣笠会のHPはゴルフコンペの話が多いなど多種多様)

子育てと仕事

H13年卒 門脇宏和



大学卒業後に滋賀県に採用され、社会人三年目の冬に結婚しました。同級生の中でも結婚は早い方だったのですが、私も妻も遊びたい盛りだったので30代半ばまでは夫婦で旅行ドライブだスポーツ観戦だと自由気ままに過ごしてきました。また、職場の先輩方の中には育児休業を取られる方や、お子さんの病気で仕事を早退される方もおられました。自分に子供がいなかったため、どこか他人事でした。一方でお互いの両親は、一向に子供ができない私たちを非常に心配していました。そんな中、結婚十年目にして第一子である女兒を授かることができました。

妻は出産を機に勤めていた歯科医院を退職し、専業主婦となりました。私は前年度の災害復旧工事等、工事や委託業務の監督を二十件近く抱えており、残業残業でむしろ娘の誕生以前より忙しい生活を過ごしていました。出勤・帰宅時には娘が寝ていることが多くて殆ど会えず、休



日にようやく起きてくる娘に出会え、育児は妻の指示に従うという程度でした。そんな中、今年の四月に第二子の妊娠が判明しました。この原稿を書いている時点では性別はわかりませんが、今年の暮れに誕生の予定です。妻のお腹と娘が日々大きくなっていく中、自分の体のこともままならない中で娘の世話をしなければならぬ妻のために、九月から

ため池の整備に取り組んでいます

H14年卒 村田康行

(大津市産業観光部 田園づくり振興課)



産業観光部田園づくり振興課では、ほ場整備事業・農業用施設の改良及び改築・農業集落排水事業等を行っています。今回は農業用施設の一部である「ため池」に関する取り組みについて紹介させていただきます。

ため池とは農業用水を確保するために、水を貯え取水設備を備えた人工の池です。水を貯えておき、必要な時に耕作地へ送水することで、季節ごとの水量の変化や異常気象の影響を抑え、農作物を安定して生産することができます。日本全国で約20万箇所あり、特に西日本で多く見られます。滋賀県については、1554箇所のため池があり、そのうち大津市には約400箇所のため池(うち当課所有8箇所)があります。

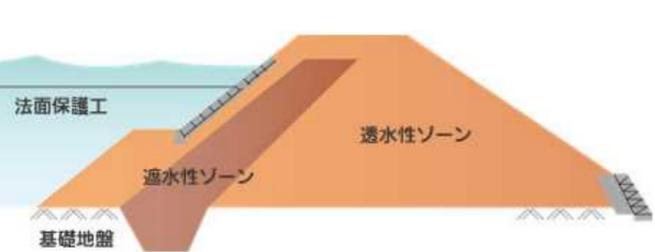


一昔前は、ため池は農業用水の確保という役割以外にも防火用水・生活用水の確保といった役割があり、地域で管理し、地域で守るという考え方が根付いていました。そのため、

泥上げや草刈等の維持管理及び水管理は集落総出で実施していました。

時代が流れ、本市は京阪神のベッドタウンとして発展し続け、宅地化が進みました。また、農業所得の減少・価値観の多様化等により、農業従事者の減少及び高齢化が進むとともに、生活用水や防火用水としてのため池が使われる機会が減少し、地域のため池を守ることに困難になりました。しかし、近年の集中豪雨等の異常気象及びため池直下の市街化により、ため池の適正管理の必要性が更に増しています。

このような状況の中で当課では、決壊した場合に人命に被害が出ると予測されるため池については、重要水防ため池として89箇所を定め、定期的に防災パトロールを実施し、異常があった場合はため池管理者に連絡を入れ、対策についての指示を行っています。また、改修が必要な場合は、ため池管理者に指導を行い、県や国の補助金を活用し、ため池の整備・改修に努めています。今後



はハード面だけでなく、ため池のハザードマップを作成していくとともに、ため池管理者と連携を取り、集中豪雨の際の危機管理システムを構築していく予定です。

さらに、重要なため池の処分・集約が進むようにするため池所有者への指導をしていくとともに、地域住民がため池の利活用の仕方を考えていけるような土壌づくりに取り組みしていく必要があると考えています。

農林・河川・道路：部署が変わっても、「安全」に関する取り組みは土木技術者の使命であると考えています。住民の暮らしを守るためには土木技術が必要で、そのような使命を持ちながら、自己研鑽に励み、

成長していきたいと考えています。

田んぼに囲まれた生活からビルに囲まれた生活へ

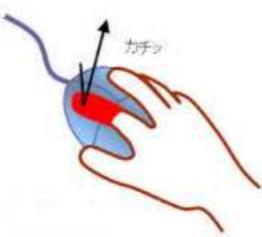
H15年卒 磯部智彦

(国土交通省都市局 公園緑地・景観課施設保全企画係)



平成26年4月から2年契約で、国土交通省に出向しております。この度の出向では、「一身上の都合により」という届けを県に提出し、国の職員として働いています。出向先では、都市局公園緑地・景観課の施設保全企画係に配属されており、都市公園行政に係わる部署で、主に遊具などの公園施設の安全管理に関する仕事を担当しています。ちなみに、県からは、県職員ではないため東京事務所の県寮に入れないと言われ、民間のアパートを借りて生活しています。国の寮には入れるのですが、通勤時間が2時間近くかかるというありがたない言葉をいただき、東京で家探しをするという貴重な体験ができました。

全国の都市公園における事故情報収集や遊具の設置状況、点検状況等の調査を行い、現状や課題の把握、政策の評価等を行っています。全国的に調査する際、自分が地方公共団体あてに送る1通のメールで、ものすごい数の自治体の職員が作業することになると思うと、送信ボタンを押す指が毎回震えます。





また、公園施設の安全管理に関する基準や公園施設の老朽化対策等についても担当しています。「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」の改訂(平成26年6月)、「公園施設の安全点検に係る指針(案)」の策定(平成27年4月)に係わる仕事もさせていただきました。老朽化対策については、道路・河川等も含めた社会資本全体の大きな課題であり、社会資本整備審議会等で国土交通省として検討を行っているところです。その中で、都市公園において適切な維持管理・更新を実施するため、基準類の整備、データベース構築等の検討を行っています。

さらに、公園事業に関する要望対応等について、近畿地区の担当をしています。公園事業の場合は市町村の事業が多く、まちづくりと公園事業が直結しており、県とはまた異なる視点で事業を実施しているように感じます。このように国、県、市町村のそれぞれの視点に違いを感じる場面があります。

最後に余談ですが、国土交通省のOBの方と話した際に、その方は現役時代に滋賀県に出向した経歴があり、当時「磯部」という県職員と一緒に仕事をしたと伺いました。私事ですが、自分の父親が元県職員であり、自分とその県職員の面影があると言われ、もしかするともしかするかもしれないということがありました。

県から外に出て、国の立場で仕事をするとという貴重な経験をさせていただいていますが、その中で、改めて仕事をしていく上での人と人との

つながりのおもしろさや大切さを感じながら働いています。
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
下水道って？
 H20年卒 和田 大
 (滋賀県琵琶湖環境部下水道課)



県下水道課に勤めだして1年半になりました。最初は流域下水道、公共下水道って何が違うの？合流式、分流式？と分からないことだらけ。それまでまったく下水道に興味がありませんでした。土木は道路、河川、橋梁などのイメージがあったので、下水道はというと、人の目に触れない地下構造物で地味な印象。まさか下水道に携わることになるとは思いもよりませんでした。

以前はまったく見向きもなかったマンホール。今では道路のマンホールに目がいくようになりました。しかも、下水道は下水道管だけでなく、その行きつく先、下水処理場がメイン。これがかなり巨大な構造物であることに驚きました。下水がきれいに処理されて琵琶湖に流すために様々な処理をするための沢山の池や施設。下水道に携わって知りませんが、滋賀県は琵琶湖の環境に配慮した高度な水処理技術や下水道普及率からみても、下水道に関してはかなりの先進県ということが分かりました。

肝心な仕事はというと、全て予算管理や手続き処理等デスクワークで、現場見学等以外に現場に向くことがなくさびしい気もします。逆に日焼けはしないし、蚊に刺されることもないので、屋内の快適な環境で仕事ができるのでいいのかなと思っています。(笑)1年目は、先輩方に教わりながら国からの調書作成や細々とした事務処理をこなしていました。2年目は、下水道工事積算の歩掛本の改定作業を担当しました。工事の積算経験もないのに歩掛の改定とりまとめができるのか不安でしたが、経験豊富な先輩方、市町の方の助けをいただきながら業務を終えることができました。まだまだ知識も経験もありませんが、これからコツコツと自分を磨いていきたいと思えます。

話しは変わりますが、最近では低炭素社会が求められている中で、下水道が資源・エネルギーの面で注目されています。地味な存在であった下水道が、今後大いに活躍していくとなると期待せずにはいられません。自分も今は芽が出た？出てないかもしれませんが、いつか大きく成長し活躍できるようになりたいと思っています。今後ともみなさまよろしくお願ひします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊



私の仕事

H27年卒 佐藤太紀
 (滋賀県大津土木事務所河川砂防課)

私は滋賀県大津土木事務所河川砂防課に所属しています。砂防担当になりましたが、大学時代は河川系の研究室に所属しており砂防に関する知識は全くありませんでした。

働き始めた当初、いろいろな砂防の現場を見学しました。砂防堰堤は基本的に山の中にあるので、狭い山道を車で登って行き、大規模な砂防堰堤を目にした時の感動は大きなものでした。就職して砂防の仕事に携わることになり、以前はまったく関心なかった砂防に興味を持つようになりました。

私は滋賀県に就職しましたが、実家は広島にあります。広島に里帰りした際、私は広島県福山市にある堂々川砂防の見学に行きました。堂々

川砂防は江戸時代に建設された砂防群で国の登録有形文化財に指定されています。この砂防群の特徴は当時お雇い外国人の技術を借りて建設された砂防が多い中、日本の城郭技術から発展した石垣積技術を利用したものであることです。この砂防堰堤群が多くの人々の命を土砂災害から救ってきたことを思うと、砂防の果たす役割の大きさを実感することができました。

広島といえば平成26年8月に大規模な土砂災害があり、大きな被害を受けたことが今も記憶に新しいと思います。土砂災害の被害を受けた場所は私の実家からはかなり離れた場所ではありましたが、土砂災害の恐ろしさを身近に感じたことを覚えています。滋賀県は他県と比べて土砂災害危険箇所数は少ないそうですが、近年の異常な気象状態を見ると、安心してはいられません。砂防事業は土砂災害から人々を守る重要な仕事であり、すこしでも人々の役に立てるようにしっかりと行っていきたいと考えています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◆新会員の紹介◆

今年度新規に滋賀建設会の会員になっていただいた6名にアンケートに答えていただきました。

- ①氏名(卒業年)
 - ②職場
 - ③担当する業務
 - ④今の職場を希望した理由
 - ⑤今の職場の雰囲気・様子
 - ⑥大学での卒研テーマ
 - ⑦総会に参加した感想
 - ⑧これからの抱負
 - ⑨趣味
- ① 藤岡 祐 (学卒：H18・院卒：H20)



- ② 滋賀県土木交通部
流域政策局河川・港湾室
- ③ 総合流域防災事業および補助障

害防止対策事業における予算・計画・工事執行に関する業務など。



- ④ 県全体の河川改修事業に携わる事ができ、公共事業の全体像を把握できると考えたため。
- ⑤ 予算管理、国市町との折衝、議会対応も担うため、職場には土木技術だけでなく、バランス感覚に優れコミュニケーション能力の高い方が揃っています。
- ⑥ 卒論…ケニア共和国を事例としたODA水供給プロジェクトにおける評価手法の開発
修論…インド国ポパール湖を事例とした湖沼環境改善プロジェクトにおける評価体系的検討
- ⑦ 非常に活気ある会合で、色々なフィールドで活躍される諸先輩方と交流することができて良かったです。
- ⑧ オールドルーキーですが、若手先輩方に遅れをとらないよう持ち前の粘り強さで進み続けま
- ⑨ フットサル、読書、旅行

① 桂 靖典 (E18)



- ② 滋賀県東近江土木事務所

河川砂防課
 ③ 河川・ダム管理担当
 ④ 災害が多い今の時代、土木は必要不可欠な分野であり、自分が何かの役に立てればと感じたため。



- ⑤ なごやかな雰囲気でも良いです。
 - ⑥ 歴史的眺望景観の保全・継承に関する研究く大津市を事例として、
 - ⑦ (私用により参加できませんでしたが)
 - ⑧ たくさんのことを学んできたので。
 - ⑨ 旅行
- ① 岸本 大河 (学卒：H25・院卒：H27)



- ② 滋賀県湖東土木事務所
道路計画課
- ③ 改良計画担当
- ④ 道路はいつも活用するものであり、その事業に携えることで大きな達成感を感じることができると考えたため。



⑤ 熱心に指導してくれる先輩方ばかりで居心地の良い職場です。



- ⑥ 生物脱臭装置内の微生物がトルエンガス除去機構に及ぼす影響の把握
- ⑦ 人生経験豊富な方が多くいるため、いろいろな刺激を受けることができる良い機会でした。
- ⑧ 目前の業務に対して、受け身ではなく自立して行動できるよう、精進します。
- ⑨ アウトドアスポーツ（主に硬式テニス）

① 堀川 明宏 (H18)



- ② 滋賀県甲賀土木事務所 道路計画課

- ③ 道路の改良計画
- ④ 大学で学んだことを活かせる場で働きたいと思い希望しました。
- ⑤ 些細な事でも細かく指導していただき、とても働きやすい雰囲気です。
- ⑥ 四万十式作業道の導入による木質バイオマス利用拡大効果
- ⑦ 会員同士のつながりがとても強い印象を受けました。
- ⑧ 毎日新しいことだらけで戸惑い

もありませんが、多くの仕事を任せてもらえるように頑張ります。



- ⑨ ジムでのトレーニング

① 佐藤 太紀 (H27)



- ② 滋賀県大津土木事務所 河川砂防課

- ③ 砂防担当
- ④ 大学時代の知識を生かせるのではないかと考えたので



- ⑤ 活気があり、優しい人が多い
- ⑥ 琵琶湖のナウキヤストシステムに関する研究
- ⑦ 色々な人と接することができて

良い経験だった
⑧ 私は段取りが悪いところがあるので、しっかりと迷惑をかけないようにやっていきたい。



① 大林 宣士 (H27)

- ② 滋賀県東近江土木事務所 道路計画課

- ③ 新しくできる県道の設計、監督員など。
- ④ 車を運転する中で道路という身近な存在に興味を持ったから。



- ⑤ 親しみやすい雰囲気。
- ⑥ 球形タンクブレースの補強実験
- ⑦ 公務員以外の人の話などを聞いて勉強になった。
- ⑧ 早く仕事を覚える。
- ⑨ お酒を飲むこと。

編集後記

今回はS33卒の安田さんからH27新規会員の6名まで、総勢16名の方にご協力を頂いただき感謝しております。

今後も「滋賀建設会だより」が会員相互の情報交換の場となるよう、努力していく所存ですので会員皆様のご感想・ご意見・ご要望の声を聞かせください。

○連絡先：滋賀建設会事務局
kinugasaba@iwako.ne.jp

計報
S39卒 谷口 功 様 (H26・4)
S33卒 平尾吉一 様 (H27・9)
「冥福をお祈りします。」